

秋のセミナー・Bコース 10月1日(火) 開催地：東京

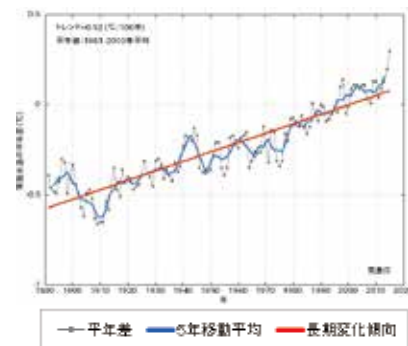
共 催

一般社団法人 町の工務店ネット・NPO法人 家づくりの会・LEXS研究会・一般社団法人 田園居住推進協議会

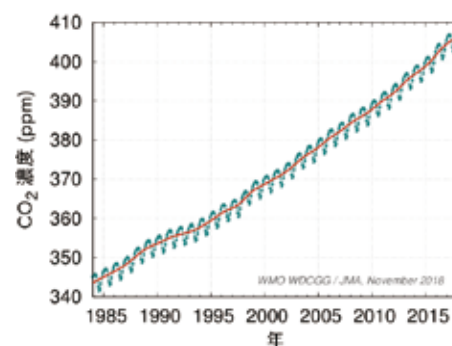
組織内通信

2割の建築人が疑問を感じているのに？

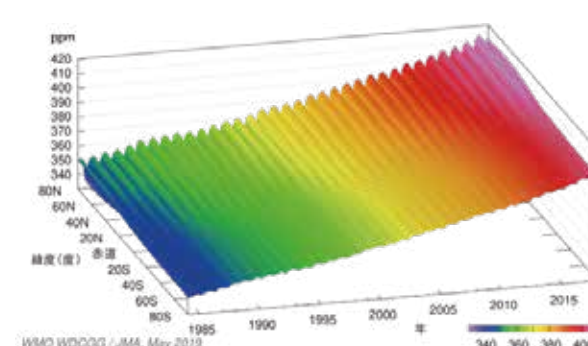
もう「気候変動」とは言いません。「気候の危機」というようになりました。



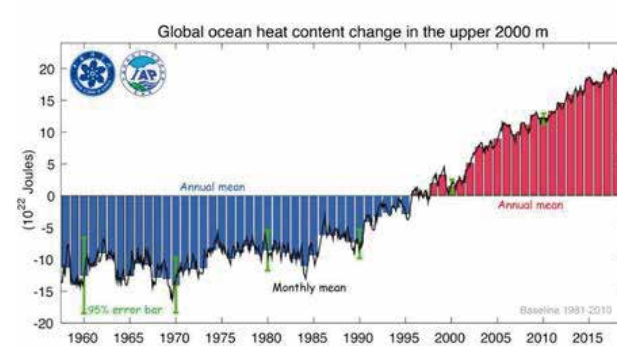
海面水温の長期変化傾向(全球平均)
年平均海面水温(全球平均)の年差の推移



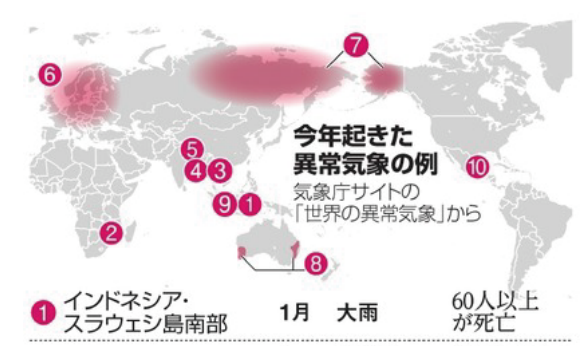
地球全体の二酸化炭素の経年変化。
この曲線は左図と似ている。



緯度帯ごとに平均した大気中の二酸化炭素濃度の変動。

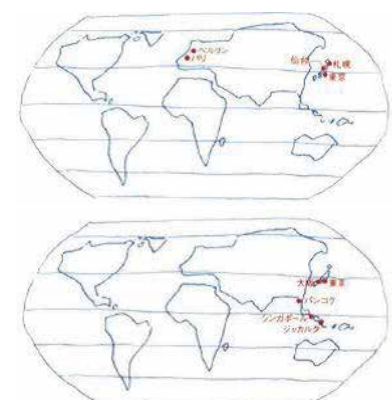


水深2000mまでの海洋の熱含量。



① インドネシア・スラウェシ島南部	1月 大雨	60人以上が死亡
② 東アフリカ南部	3～4月 複数のサイクロン	計1千人以上が死亡
③ タイなど東南アジア北西部からインド南東部	6月 異常少雨	
④ インド	6月 熱波	計110人以上が死亡
⑤ 南アジア	7月 大雨	780人以上が死亡
⑥ ヨーロッパ	6～8月 異常高温	
⑦ シベリア、アラスカ	6～8月 異常高温	
⑧ オーストラリア東部から南東部と南西部	7～8月 異常少雨	
⑨ インドネシアなど東南アジア西部から南部	7～8月 異常少雨	
⑩ メキシコ東部と周辺	8月 異常高温	

朝日新聞・気候危機キャンペーン記事より 9月15日朝刊



この国は、上図と表に見るように、冬は北ヨーロッパの寒さに近く、夏は熱帯蒸暑地域のインドシナの暑さに匹敵する気候条件に置かれています。

1月(1971年から2000年までの平均値)		
	気温(℃)(月別平均値)	降水(mm)(月別平均値)
パリ	4.0	55.8
ベルリン	0.8	43.8
東京	5.8	48.6
仙台	1.5	33.1
札幌	-4.1	110.7

参考/国立天文台編「理科年表」2011年版

8月(1971年から2000年までの平均値)		
	気温(℃)(月別平均値)	降水(mm)(月別平均値)
バンコク	28.8	207.8
シンガポール	27.7	156.3
ジャカルタ	27.6	69.2
東京	27.1	155.1
大阪	28.4	99.0

参考/国立天文台編「理科年表」2011年版



エアコン普及率
／保有世帯平均保有台数(二人以上世帯)



今朝(2019.9.19)の朝日新聞に「沈みゆく水の都ベネチア」という記事が出ていました。同紙は連日「気候危機キャンペーン」を張っていますが、前にAP→共同通信が配信した、ベネチアのサン・マルコ広場で水遊びを楽しむ男女の写真を出し、webで検索したら一番目の画像で出ていました。今日の記事によると、この広場はベネチアの中で水深が最も浅く、年間数ミリずつ地盤沈下が進んでいるそうです。気象庁などが発表しているグラフを見ると、気候変動ではなく「危機」だと見ざるを得ません。



イタリア・ベネチアの浸水したサン・マルコ広場で水遊びを楽しむ男女(2002年AP＝共同通信の記事より)



記録的な干ばつで干上がった田んぼ＝タイ北部ノンブア 9月15日朝刊

閉じる一方、エアコン依存の家の造りでいいの？

昨年、NHKは猛暑日によって、熱中症の多発が予想されると「ためらいなくエアコンを使ってください」とアナウンスするようになりました。口調が地震情報に似ていてドキッとします。しかし、断熱・気密の弱い家では、余りエアコンは利きません。利かないエアコンは電気代も食います。ということで、高断熱・高気密＋エアコンが、新築の必須要件化するようになりました。エアコンは、2℃室温を低下させるには、およそ5℃の熱を排出します。排出された熱は、建物周辺のヒートアップを誘いますので、お隣も家を閉じ、エアコンを回すようになり、それが都市のヒート・アイランド現象の一因になり、つまるところ、それが各データの経年変化を生んでいます。

品確法以降、住宅業界は「家を閉じてエアコンを回すのがいい」「しょうがない」ということができました。都市部だけでなく、まだ通風が期待される地方においても一般化してしまいました。この事態に、およそ2割位の建築人が疑問を持っている、と言われます。

と言っても、もう一つの選択肢は本当にあるの？

われわれは高断熱・高気密住宅や、エアコンを否定するものではありません。省エネ性能は、その時代の技術水準であり、エアコンは、冬は北ヨーロッパの寒さに近く、夏は熱帯蒸暑地域のインドシナの暑さに匹敵する暑さに見舞われる国にあって、冬にも夏にも使える便利な設備機器です。けれども、それだけでOKでいいわけがありません。今の問題は、現実には縛られ、そこで思考停止していることです。もっと建築でやれることがある筈だと考え、行動を開始しなかったら、建築に未来はありません。秋のセミナー・Bコースは、この難題をテーマに掲げました。「火を吹くような議論を期待します」と申し上げましたが、冷静で知られる面々なので、脳が洗われるような見通しや方法が語られることでしょう。

ヒントになるのは、物理的・工学的・無機機ではなく、人と自然の関係、五感の働きといった、生体的・有機的な関係性でしょう。参加者がそれを、絵解きするように分るように、と申し上げています。

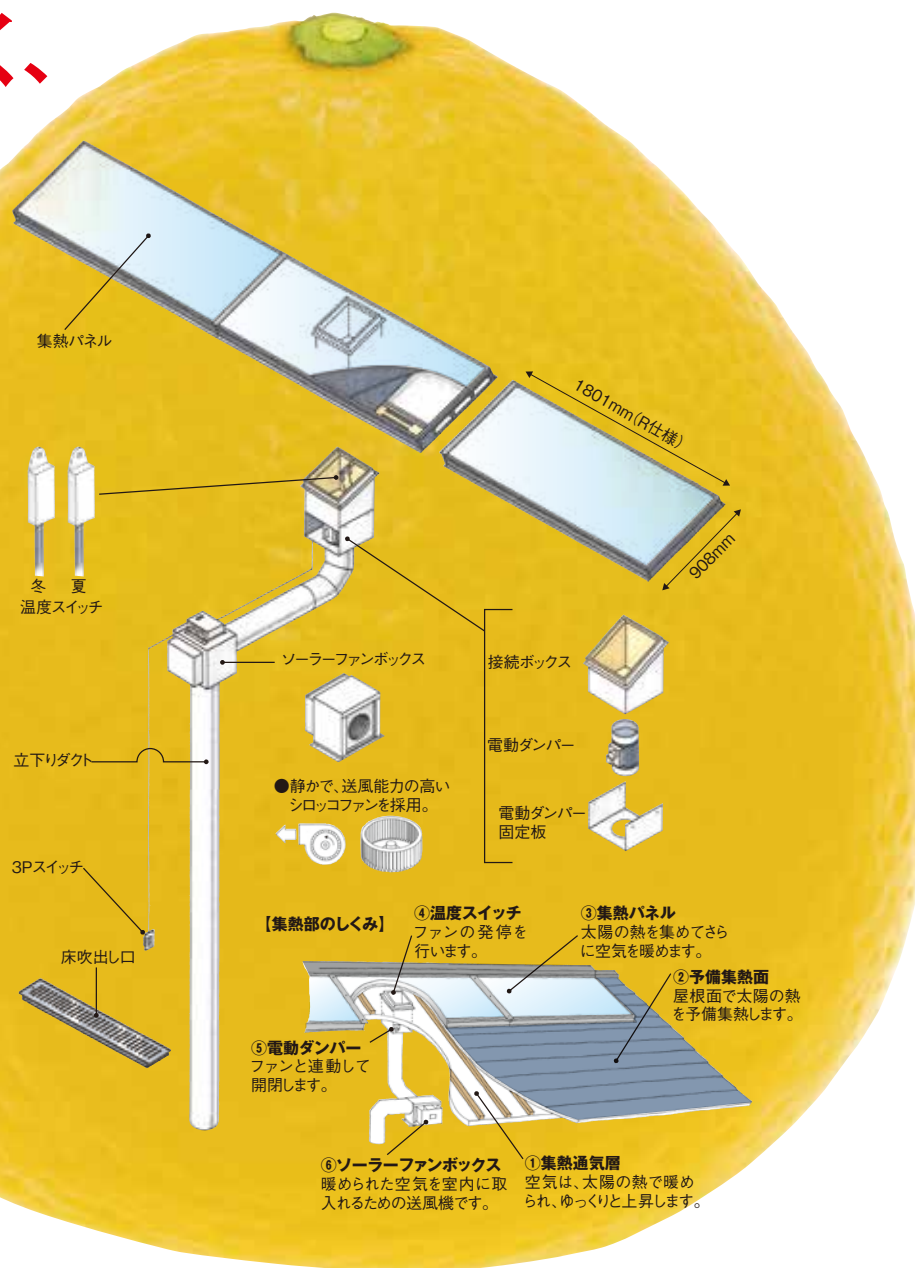
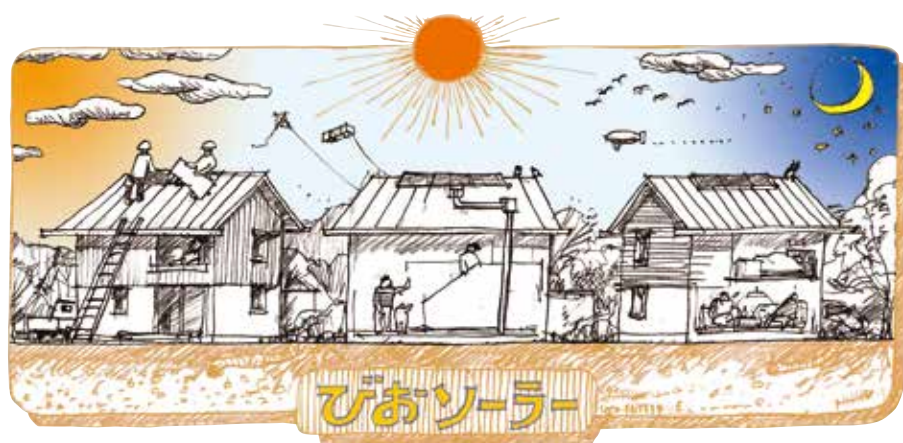
もう一つの選択肢。自然に開く、人が動く。「びおソーラー」

シンプル・かんたん・長寿命

びおソーラーの3つのモットーです。シンプルは、理にかなっているということ。理にかなっているものは、設計も、工事も、メンテナンスも、かんたん。理にかなっているものは、長い時間に耐えられるので長寿命。この三つを包めて言えば、コスト的にも安くやれます。ファンの運転制御にはマイコンを用いず、バイメタル式の温度スイッチを用いています。一定の温度になると自動的にファンが動きます。冬と夏では温度が異なるので、季節のモードを、人の手で切り替える必要があります。最近の機器は、マイコン+センサーでの自動制御が多用されますが、陳腐化も早く、故障したら部品がなく結果的に単寿命です。同じソーラーでも、光発電のパネルは寿命が25年程度と言われています。建物は、100年保つのに。45歳のときに建てた家なら70歳、その次は95歳で取り替えます。永い年月の想像力を働かせたいですね。住まいは次の世代に住み継がれます。長く使えるモノを、と考えると、汎用品のシロッコファンを用いました。ファンは可動部品なので、いつかは壊れてしまうものですが、商流品として入手性が高いものなので、永きにわたって使ってもらえます。

足るを知り、ミニマリズムで行くこと

「足るを知る」を言い出したのは、中国春秋時代における哲学者・老子です。原文は、「知足者富」。満足する事を知っている人間が本当に豊かな人間といった意味でしょうか。現代人はモノが溢れていることが豊かだと思っています。足りればいい、というのが老子の教えです。私たちは、「足るを知ること」をミニマリズム(最小限主義)という言葉に置き換えました。あれこれ加える多機能主義でなく、これで十分だ、というあり方です。テレビ・洗濯機などの家電は、機械の寿命があり、それに合わせて取り換えます。しかし、住宅設備は建物に組み込まれているため、いざ取り替えるとなると大掛かりで高つくります。最近、一つの機械で何でもやってのける多機能性抜群の機器が生まれました。しかし、一ヶ所故障するとすべてが止まってしまうと聞きました。都市交通がそんなふうで、小さな事故が何百万人の足を止めたりします。福島原発事故に見るように、便利な現代文明は、途方もなく不便なものに転化する可能性をはらんでいます。このリスクを避ける「予防原則」は、ミニマリズムで行くことです。



「人働き」が、よき温熱環境をつくる

現代人の特性は、便利一番にあります。その便利と引き換えに退化し、便利指標の一つである「快適」は、汗腺数の減少にまで及び、身体を軟弱せしめました。不便を、現代人は忌み嫌います。けれども、災害に襲われて便利を失うと、改めて身体が拠り所であることに気づかされます。散歩やジョギング、自転車で汗を流す。その「快適」は、与えられた「快適」とは別種のもので、生きる歓びを駆り立てます。この人間的機能の働きを、住まいにおいても大事にしたい、と思うものです。といっても、びおソーラーの住まいは、そんなに面倒ではありません。冬と夏のモードの切り換えがある程度です。ただ、冬と夏の端境期は、寒さが戻ったり、暑さがぶり返したりします。そんなとき、びおソーラーの住まい手は、モード転換のスイッチを押すことが多くなる人がいます。セーターを一枚着込むかどうか、という感覚のもので、自分の身体と折り合いをつけるような感じで…。機械が全部やってのけてしまうのを是としない生き方です。人は自然界から誕生しました。20世紀文明がもたらした進化は、人を退歩させ、人働きを期待しない社会を生んだかに見えますが、人の動きは、やっぱり身体を動かす方が嬉しい、という方向で動いています。びおソーラーは、そんなあり方を示す技術でありたい、と考えています。

参加申し込み書

参加費 … A・B・C各7,000円／人(税込・昼食各自)

◆Webでのお申込み

<http://tenomonogatari.jp/eventform>

手の物語



お申込みQRコード➡



◆FAXでのお申込み

2019年 月 日

御社名		
申込人数	人	
TEL		
FAX		
住 所	〒	
参加者名	参加代表者 ふりがな	男・女
	携帯電話番号 (当日ご連絡先)	
	参加ご希望項目の□にレ点をお願いいたします。 (すべて、先着順となります)	☐ A 中規模木造がおもしろい ☐ B 人と自然をつなぐ建築の未来形 ☐ C 泉幸甫と田瀬理夫の緑の計画学
	ふりがな	男・女
	参加ご希望項目の□にレ点をお願いいたします。 (すべて、先着順となります)	☐ A 中規模木造がおもしろい ☐ B 人と自然をつなぐ建築の未来形 ☐ C 泉幸甫と田瀬理夫の緑の計画学
代表者 メールアドレス	ふりがな	男・女
	参加ご希望項目の□にレ点をお願いいたします。 (すべて、先着順となります)	☐ A 中規模木造がおもしろい ☐ B 人と自然をつなぐ建築の未来形 ☐ C 泉幸甫と田瀬理夫の緑の計画学
	参加ご希望項目の□にレ点をお願いいたします。 (すべて、先着順となります)	☐ A 中規模木造がおもしろい ☐ B 人と自然をつなぐ建築の未来形 ☐ C 泉幸甫と田瀬理夫の緑の計画学

※お申込書FAX到着後、折り返しメールにて、ご案内等ご送付させていただきます。メールアドレスを必ずご記入ください。

FAXでのお申し込みは FAX ⇒ 053-570-9017

お問合せ

セミナー事務局／手の物語有限公司 静岡県浜松市中区南浅田2丁目2-1 tel.053-570-9012